

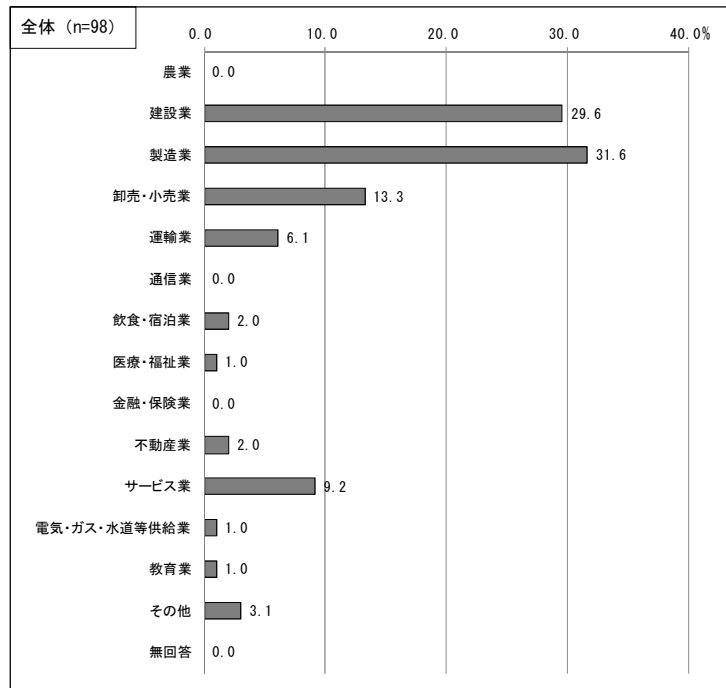
事業所アンケート 調査結果

※ アンケートの集計結果における「無回答」には、無効な回答も含めています。

1. 貴事業所についてお伺いします

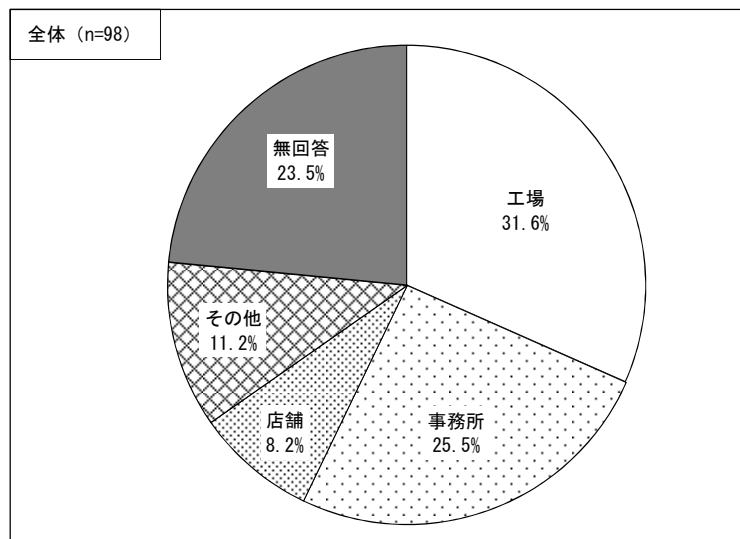
問 1-1

- 業種



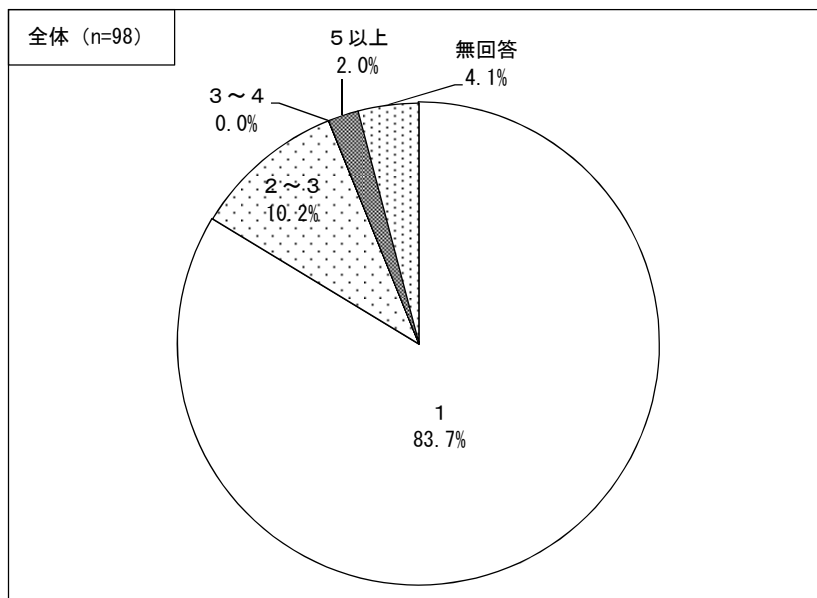
業種については、「製造業」が 31.6%と最も高く、次いで「建設業」が 29.6%、「卸売業・小売業」が 13.3%となっています。

- 事業形態



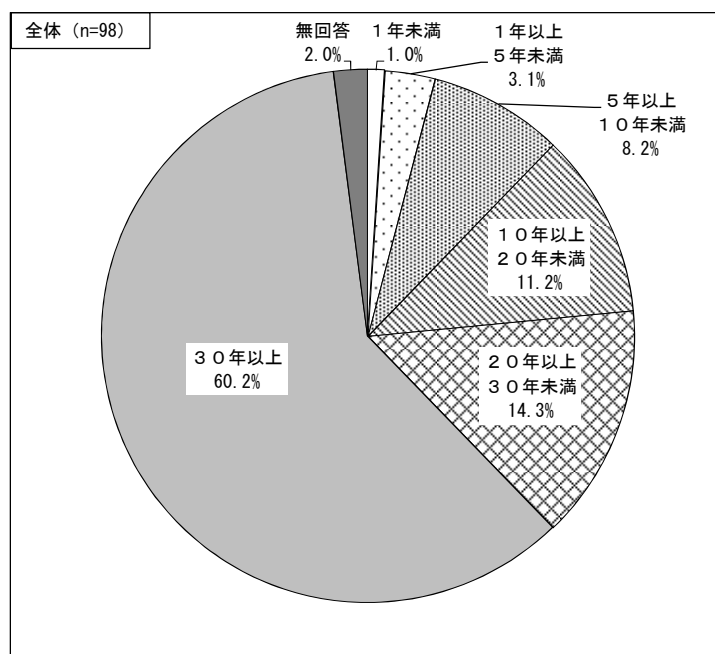
事業形態については、「工場」が 31.6%と最も高くなっています。無回答を除くと、次いで「事務所」(25.5%)、「その他」(11.2%)、「店舗」(8.2%)の順となっています。

・ 町内事業所数



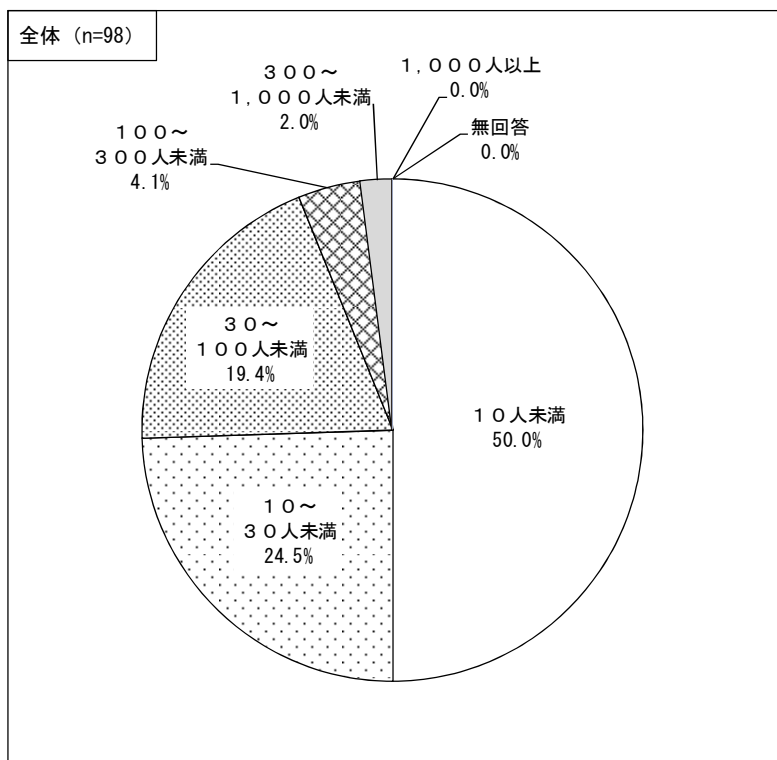
事業所数については、「1」が83.7%と最も高く、全体の8割以上となっています。

・ 川島町在所年数



在所年数については、「30年以上」が60.2%と最も高く、次いで「20年以上30年未満」が14.3%、「10年以上20年未満」が11.2%となっています。

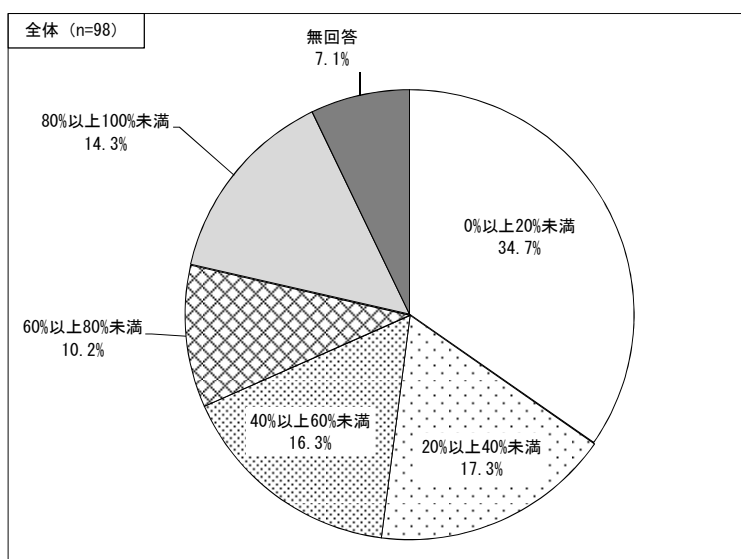
・ 従業員数（パート含む）



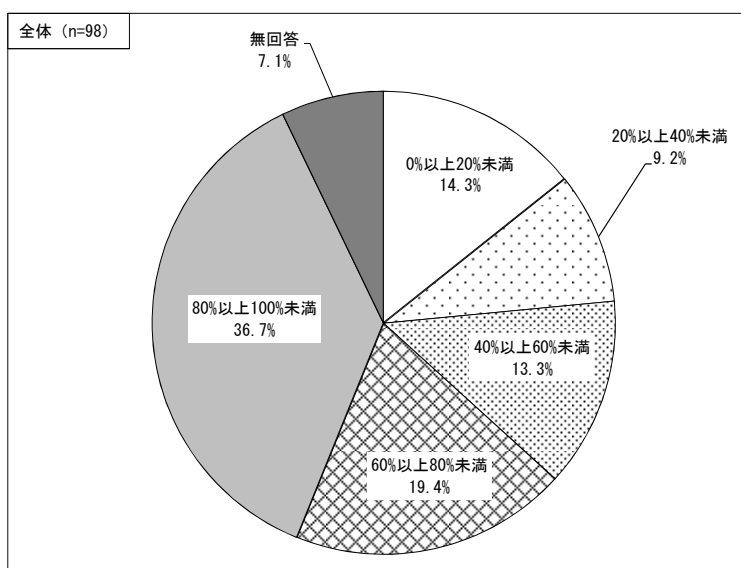
従業員数（パート含む）については、「10人未満」が50.0%と最も高く、次いで「10～30人未満」（24.5%）、「30～100人未満」（19.4%）の回答が高くなっています。回答を得た事業所の中では、比較的、小規模の事業所が多くを占めています。

・ 従業員居住地（自宅）

<川島町内>

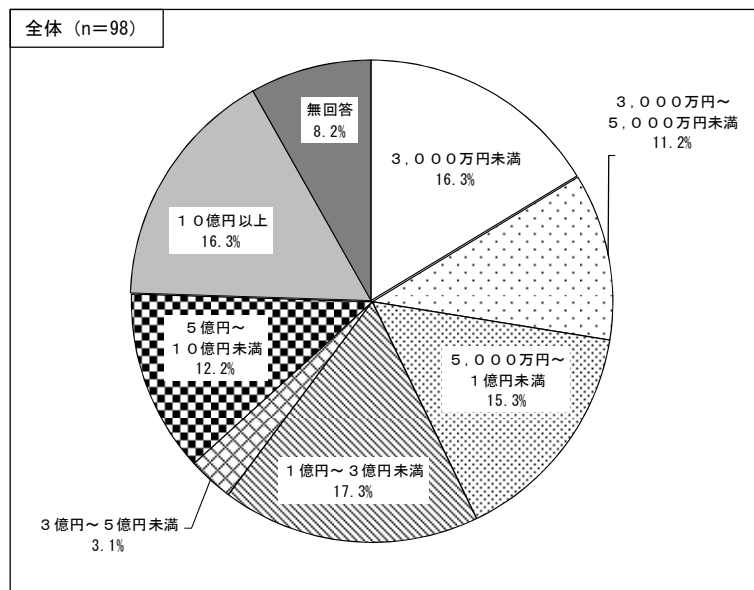


<川島町外>



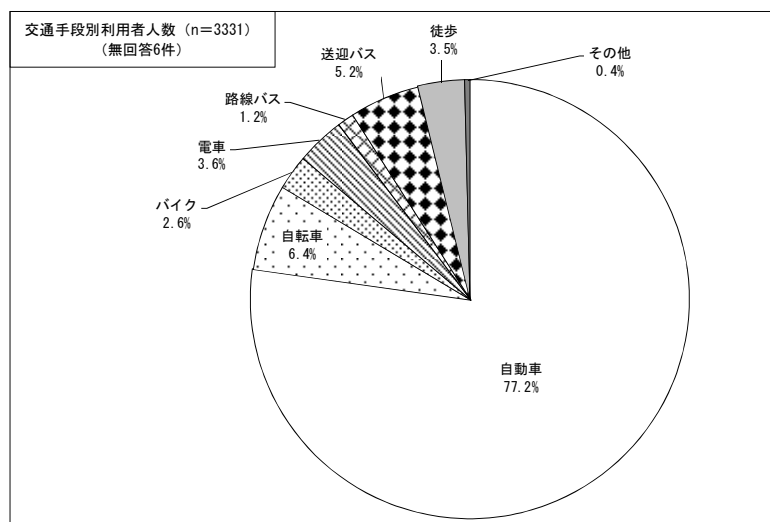
従業員の居住地（自宅）については、回答を得た事業所ごとに川島町内居住者数と町外居住者数の割合を求め、20%間隔で事業所数の割合を集計しました。当然ですが川島町内と町外では逆の傾向となり、川島町内居住者の割合は「0%以上 20%未満」の事業所が最も多く（34.7%）、町外居住者の割合は「80%以上 100%以下」の事業所が最も多くなっています（36.7%）。回答を得た事業所の中では、川島町内に居住している従業員よりも町外に居住している従業員の割合の方が高い事業所が比較的多いといえます。

- 年間売上高または出荷額



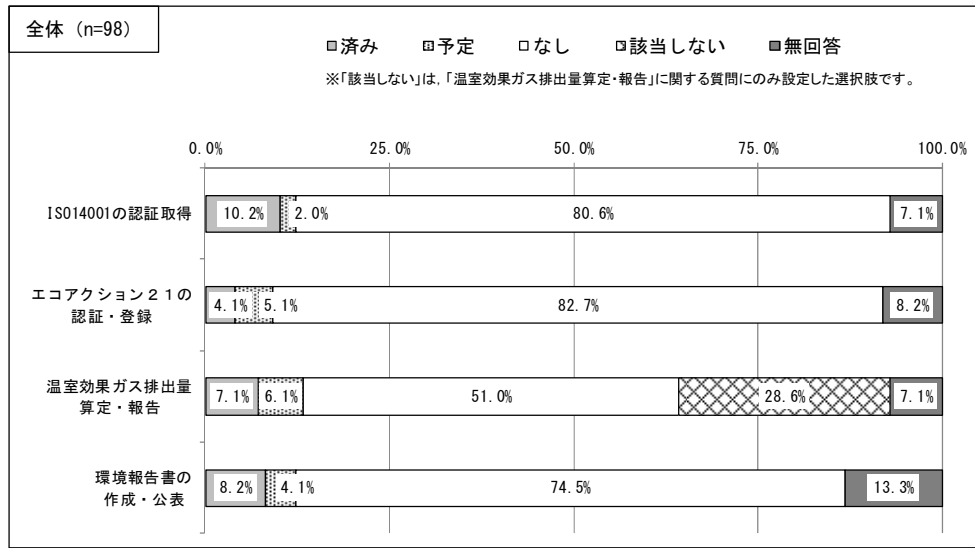
年間売上高あるいは出荷額については、「1億円～3円未満」が17.3%と最も高く、次いで「10億円以上」と「3000万円未満」(16.3%)の回答が高くなっています。回答を得た事業所の中では、1億円以上の年間売上高あるいは出荷額の事業所が約半数を占めています。

- 交通手段



従業員の交通手段については、回答を得た交通手段別の利用人数を合計し、各交通手段を利用している従業員の割合を集計しました。「自動車」を利用している従業員が77.2%と最も高く、次いで「自転車」(6.4%)、「送迎バス」(5.2%)の回答が高くなっています。回答を得た事業所の中では、マイカー通勤が大半を占めています。

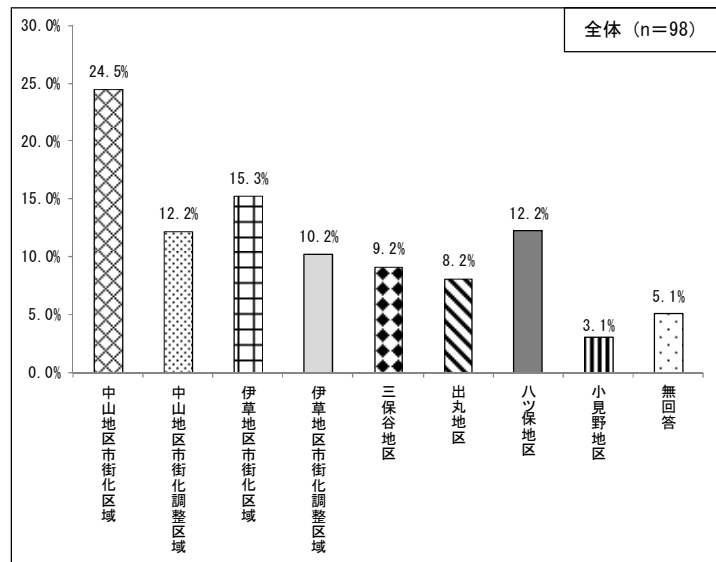
・ 環境に配慮した経営



環境に配慮した経営については、すべての項目で「なし」との回答が過半数を占めています。

「その他、環境に関する認証取得や登録内容」として、「容器リサイクル法」との回答がありました。

問 1-2

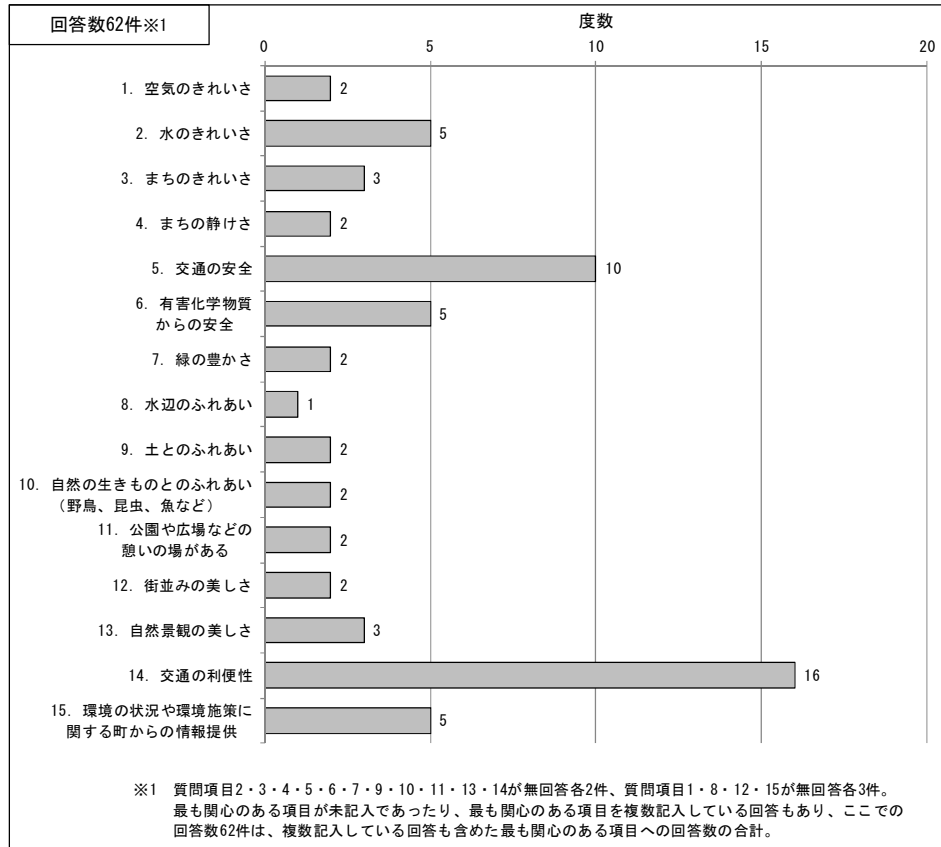


所在地については、「中山地区市街化区域」が24.5%と最も多く、次いで「伊草地区市街化区域」(15.3%)、「中山地区市街化調整区域」と「八ツ保地区」(12.2%)の順となっています。

2. 貴事業所の身近な環境に対する意識について

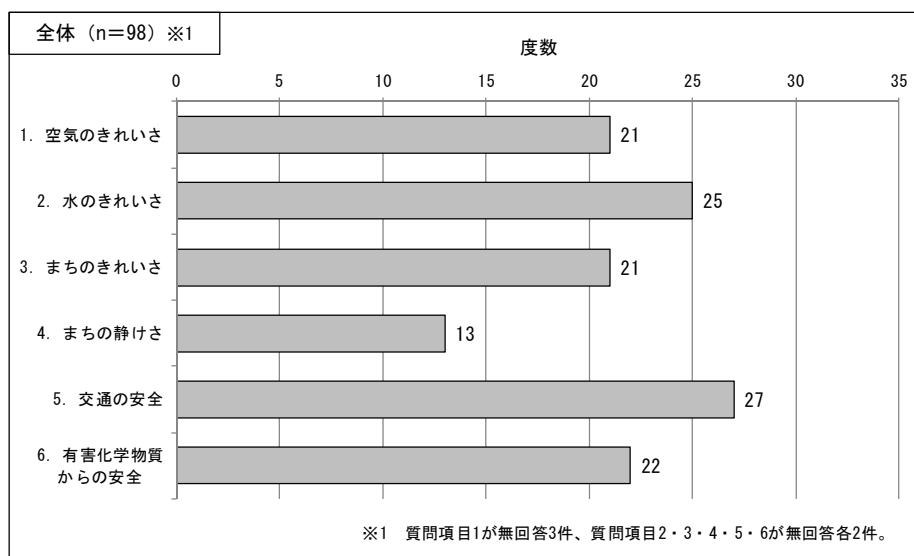
問2

- 最も関心のある環境



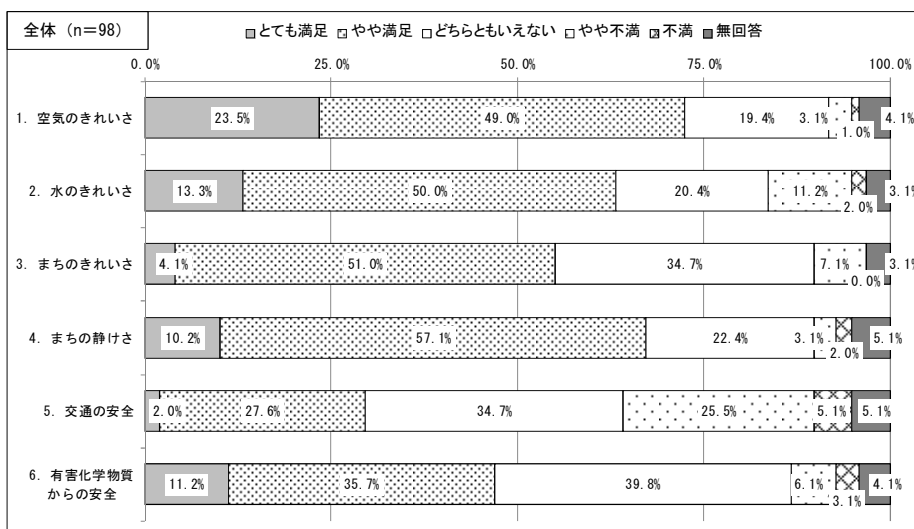
すべての項目の中で最も関心のあるものとして、「交通の利便性」が16件と最も多くなっています。次に多い項目が「交通の安全」(10件)であり、回答を得た事業所の中では交通に関する環境について関心が高くなっています。

(1) 生活環境について（関心度）



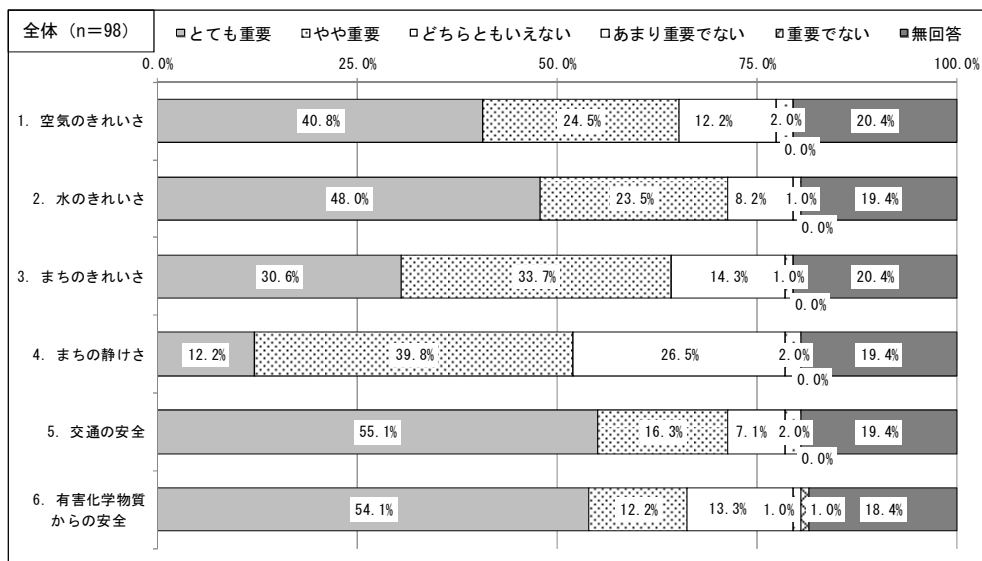
生活環境の関心度については、「交通の安全」（27 件）、「水のきれいさ」（25 件）、「有害化学物質からの安全」（22 件）の順に関心度が高くなっています。「まちの静けさ」を除く項目で、関心があるとの回答が 20 件を超えています。

(1) 生活環境について（満足度）



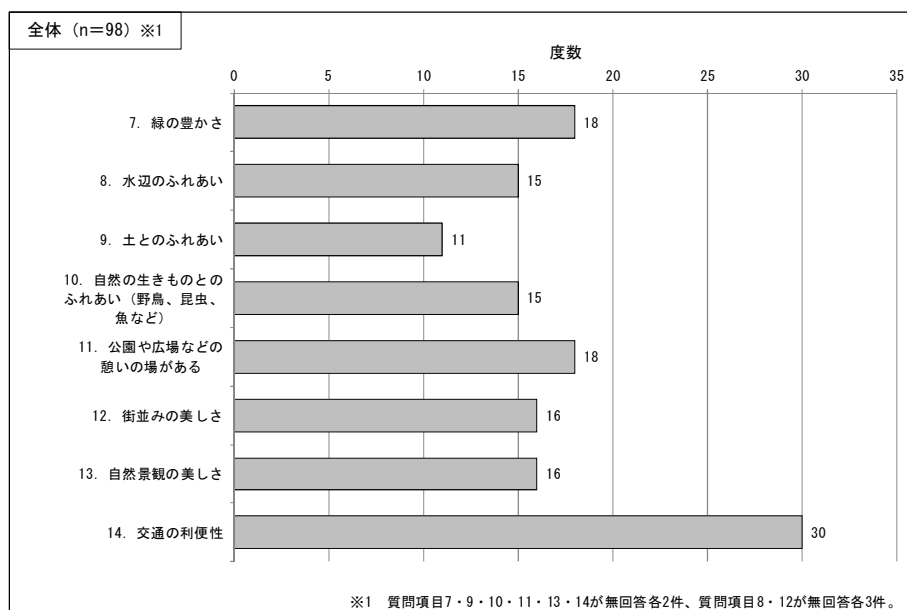
生活環境の満足度に関しては、「とても満足」と「やや満足」の合計が「空気のきれいさ」（72.4%）、「まちの静けさ」（67.3%）、「水のきれいさ」（63.3%）の順で高くなっています。「交通の安全」については、「とても満足」と「やや満足」の合計が 29.6%、「不満」と「やや不満」の合計が 30.6%となっており、満足度と不満度が同程度となっています。

(1) 生活環境について (重要度)



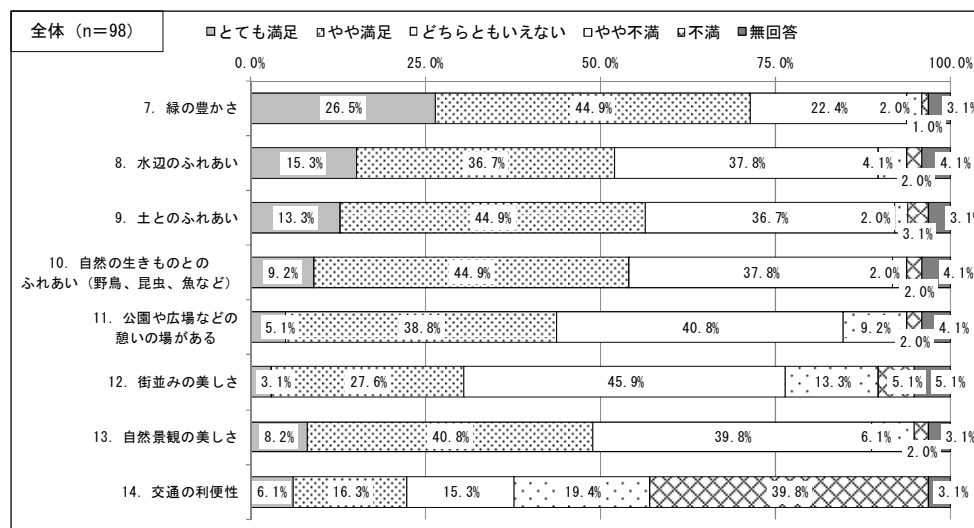
生活環境の重要度に関しては、「とても重要」と「やや重要」の合計が「水のきれいさ」と「交通の安全」が71.4%で最も高くなっており、すべての項目で50%を超えています。

(2) 自然環境や快適環境について（関心度）



自然環境や快適環境の関心度については、「交通の利便性」が 30 件と最も関心度が高くなっています。生活環境の関心度では、ほとんどの項目で関心があるとの回答が 20 件を超えていましたが、自然環境や快適環境の関心度の項目では、20 件を超える項目は「交通の利便性」だけとなっています。

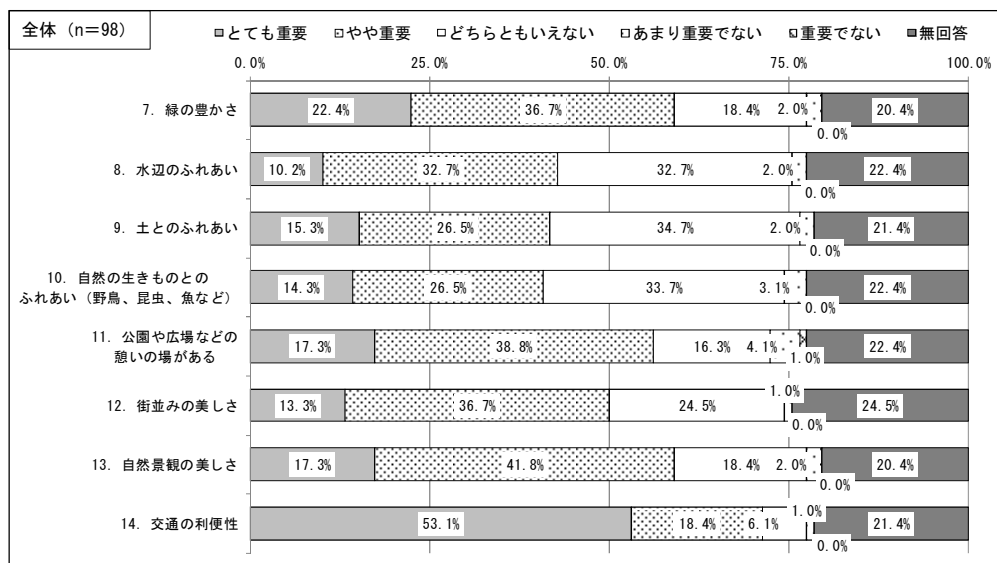
(2) 自然環境や快適環境について（満足度）



自然環境や快適環境の満足度に関しては、「とても満足」と「やや満足」の合計が「緑の豊かさ」(71.4%)、「土とのふれあい」(58.2%)、「自然の生きものとのふれあい（野鳥、昆虫、魚など）」(54.1%)の順で高くなっており、特に「緑の豊かさ」に対する満足度が

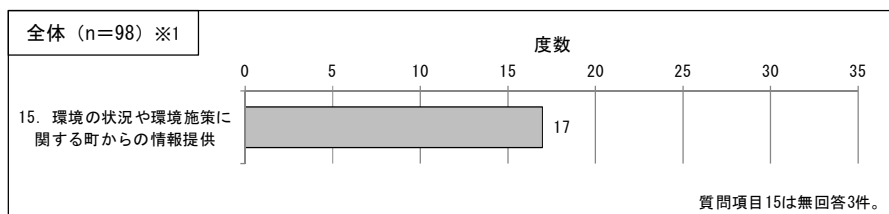
高くなっています。「交通の利便性」は、「不満」と「やや不満」の合計が 59.2%であり、回答を得た事業所の約 6 割が不満を持っています。生活環境の「交通の安全」も他の項目と比較して満足度が低くなっていたことから、交通に関する環境への満足度が低いことがわかります。

(2) 自然環境や快適環境について (重要度)



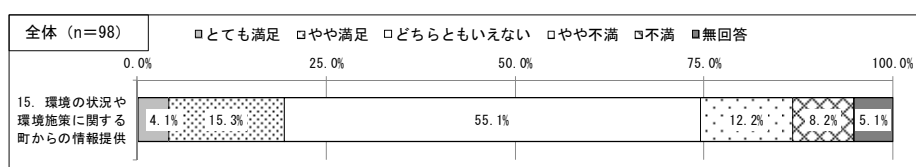
自然環境や快適環境の重要度に関しては、「とても重要」と「やや重要」の合計が「交通の利便性」(71.4%)、「緑の豊かさ」と「公園や広場などの憩いの場がある」(59.2%)の順で高くなっています。

(3) 環境情報の提供について（関心度）



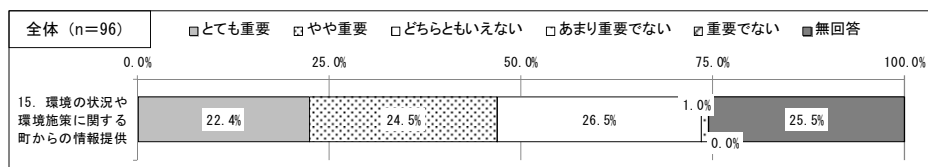
環境情報の提供の関心度については、「環境の状況や環境施策に関する町からの情報提供」が17件となっています。

(3) 環境情報の提供について（満足度）



環境情報の提供の満足度に関しては、「とても満足」と「やや満足」の合計が19.4%、「不満」と「やや不満」の合計が20.4%であり、若干、満足度の方が低くなっています。

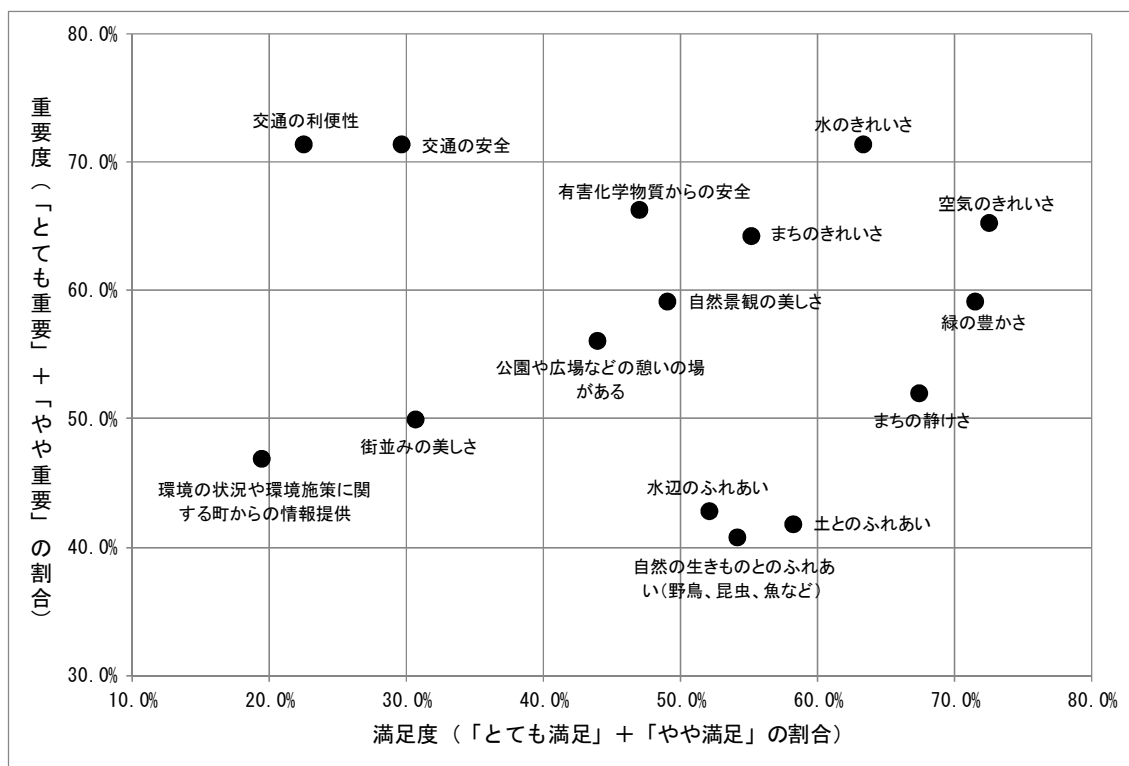
(3) 環境情報の提供について（重要度）



環境情報の提供の重要度に関しては、「とても重要」と「やや重要」の合計が46.9%となっています。

・ 満足度と重要度との相関関係

すべての項目について、満足度（「とても満足」と「やや満足」を合わせた割合）と重要度（「とても重要」と「やや重要」を合わせた割合）の相関関係を以下に示します。



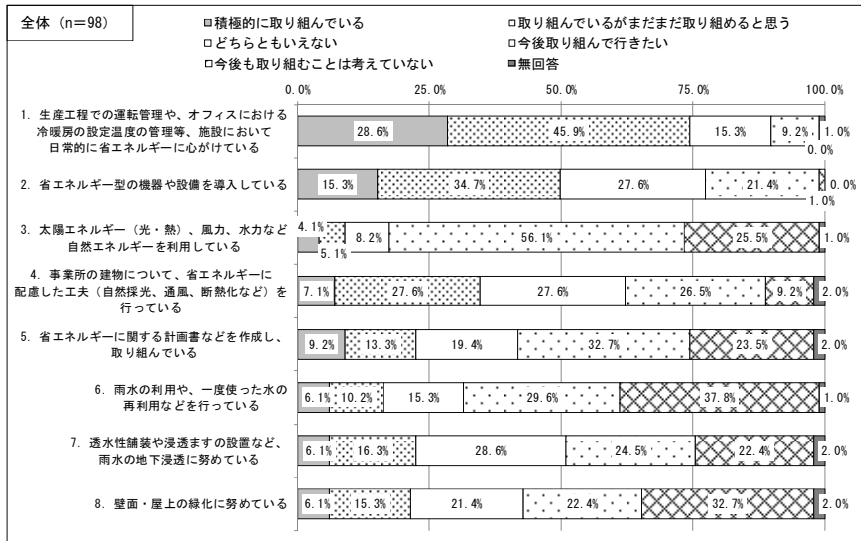
満足度と重要度の関係を見ると、「水のきれいさ」や「空気のきれいさ」については、満足度も重要度も高く、現在維持やさらなる増進の必要性がうかがえます。

また、「交通の利便性」と「交通の安全」については、重要度が高いにもかかわらず満足度が低いことから、安全で利便性の高い交通環境になるように改善していく必要があるものと考えられます。

3. 環境保全に対する取り組みについて

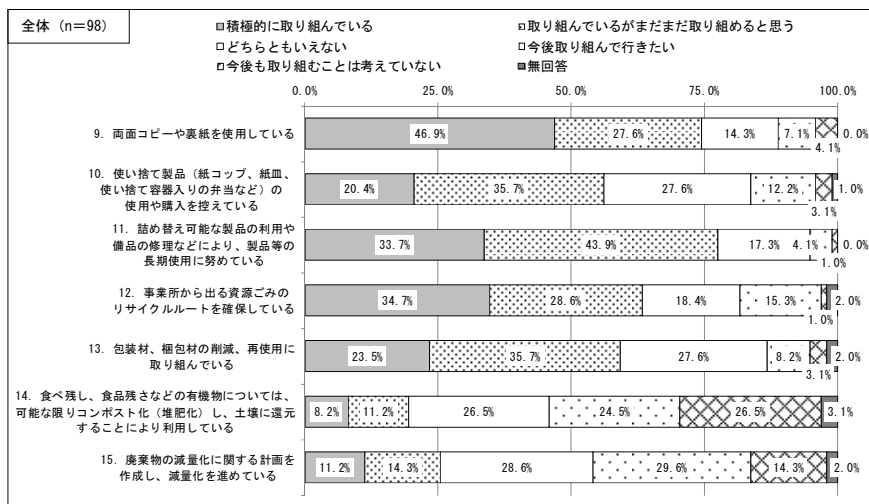
問3-1

(1) エネルギーなどについて



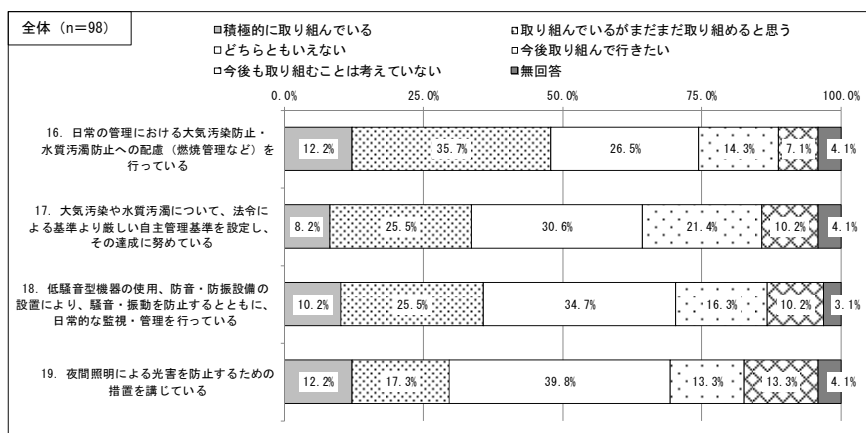
「積極的に取り組んでいる」との回答は、「生産工程での運転管理や、オフィスにおける冷暖房の設定温度の管理等、施設において日常的に省エネルギーに心がけている」(28.6%)が最も高く、次いで「省エネルギー型の機器や設備を導入している」(15.3%)、「省エネルギーに関する計画書などを作成し、取り組んでいる」(9.2%)の順となっています。また、「太陽エネルギー（光・熱）、風力、水力など自然エネルギーを利用している」については、「今後取り組んで行きたい」との回答が56.1%となっており、省エネルギーに関する取り組みへの関心の高さがうかがえます。

(2) 廃棄物について



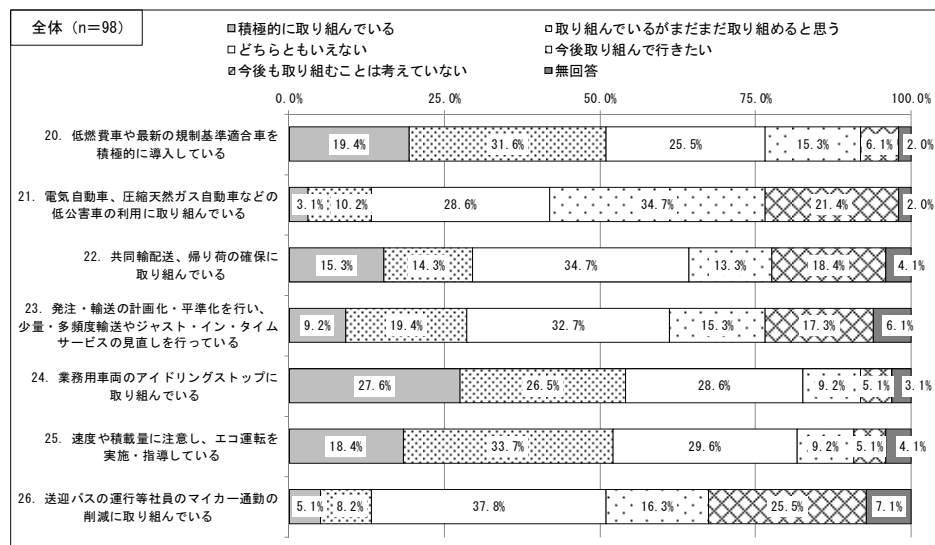
「積極的に取り組んでいる」との回答は、「両面コピーや裏紙を使用している」(46.9%)が最も高く、次いで「事業所から出る資源ごみのリサイクルルートを確保している」(34.7%)、「詰め替え可能な製品の利用や備品の修理などにより、製品等の長期使用に努めている」(33.7%)の順となっています。多くの項目で「積極的に取り組んでいる」と「取り組んでいるがまだまだ取り組めると思う」の合計が50%を超えており、廃棄物の再利用や廃棄物が出さない活動に取り組んでいることがわかります。

(3) 大気汚染・水質汚濁など公害防止について



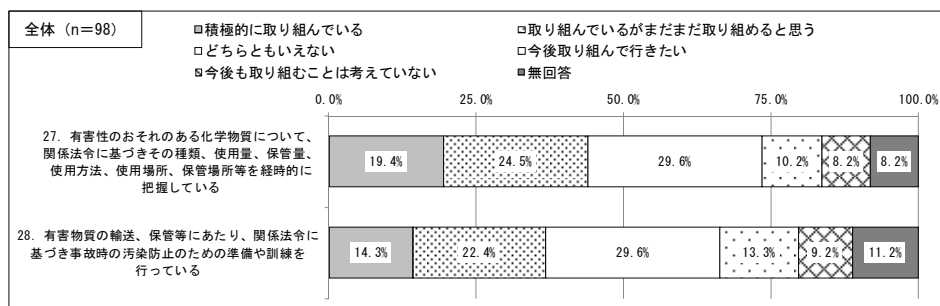
「日常の管理における大気汚染防止・水質汚濁防止への配慮（燃焼管理など）を行っている」と「夜間照明による光害を防止するための措置を講じている」が、「積極的に取り組んでいる」との回答が12.2%と最も高くなっています。

(4) 自動車の利用について



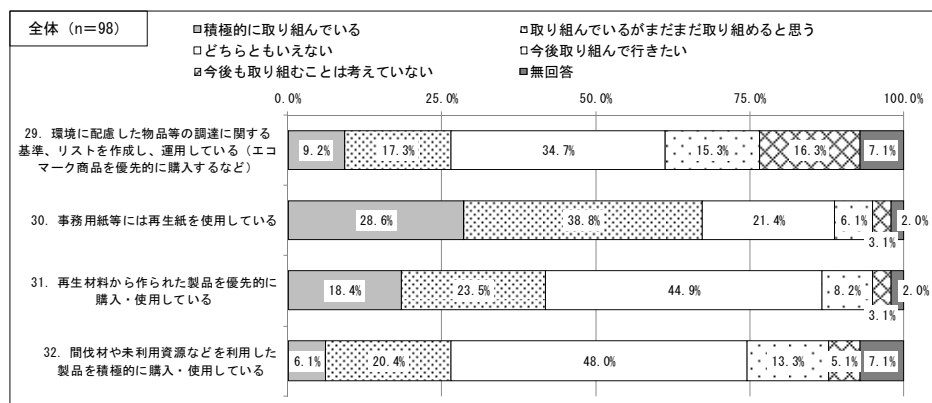
「業務用車両のアイドリングストップに取り組んでいる」(27.6%)、「低燃費車や最新の規制基準適合車を積極的に導入している」(19.4%)、「速度や積載量に注意し、エコ運転を実施・指導している」(18.4%)の順に、「積極的に取り組んでいる」との回答が高くなっています。「電気自動車、圧縮天然ガス自動車などの低公害車の利用に取り組んでいる」については、「今後取り組んでいきたい」との回答が34.7%と最も高くなっていますが、「積極的に取り組んでいる」と「取り組んでいるがまだまだ取り組めると思う」の合計が低く、「今後も取り組むことは考えていない」との回答も21.4%であり、導入コストが一つの理由として考えられます。

(5) 化学物質対策について



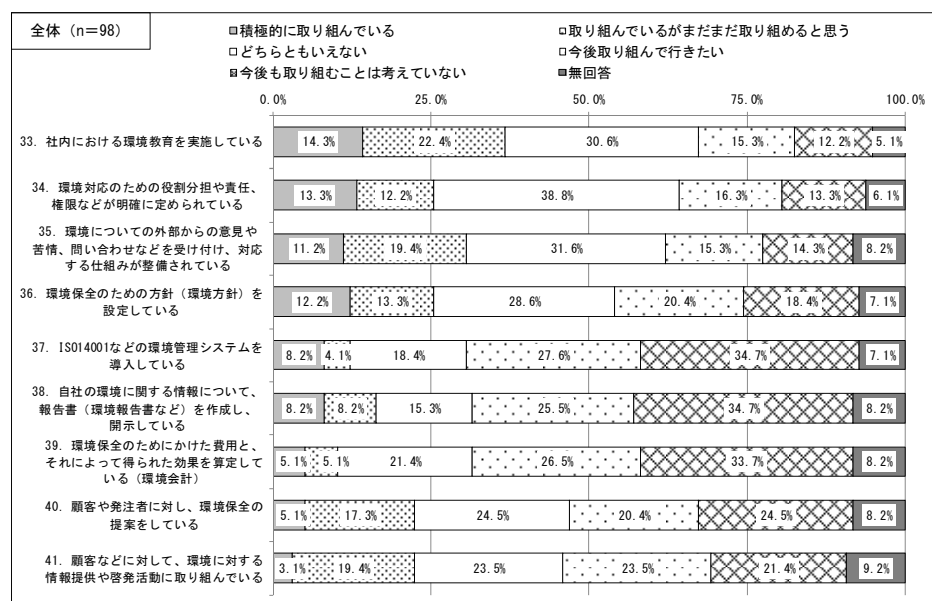
「積極的に取り組んでいる」との回答は、「有害性のおそれのある化学物質について、関係法令に基づきその種類、使用量、保管量、使用方法、使用場所、保管場所等を経時的に把握している」が19.4%、「有害物質の輸送、保管等にあたり、関係法令に基づき事故時の汚染防止のための準備や訓練を行っている」が14.3%となっています。

(6) グリーン購入について



「事務用紙等には再生紙を使用している」については、「積極的に取り組んでいる」との回答が28.6%であり、「取り組んでいるがまだまだ取り組めると思う」と合わせると67.3%となっています。印刷やコピーで日常的に利用する事務用紙等への配慮がうかがえます。

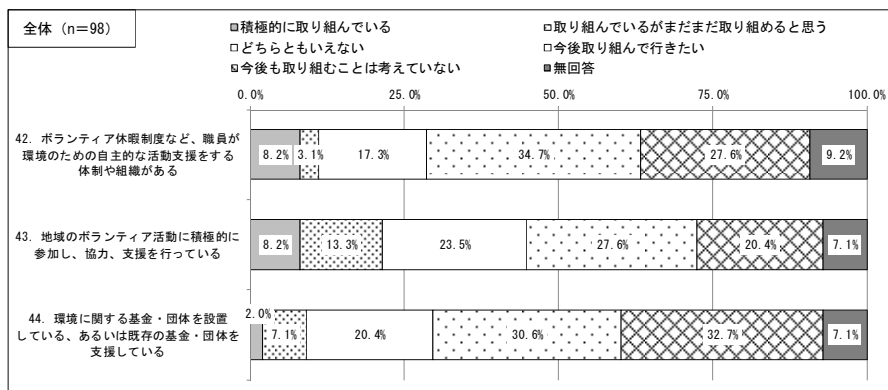
(7) 環境保全のための体制・情報提供などについて



「積極的に取り組んでいる」との回答は、「社内における環境教育を実施している」が14.3%と最も高く、次いで「環境対応のための役割分担や責任、権限などが明確に定められている」(13.3%)となっています。また、「積極的に取り組んでいる」と「取り組んでいるがまだまだ取り組めると思う」の合計をみると、「社内における環境教育を実施している」が36.7%と最も高くなっていますが、「環境についての外部からの意見や苦情、問い合わせなどを受け付け、対応する仕組みが整備されている」(30.6%)、「顧客や発注者に対し、

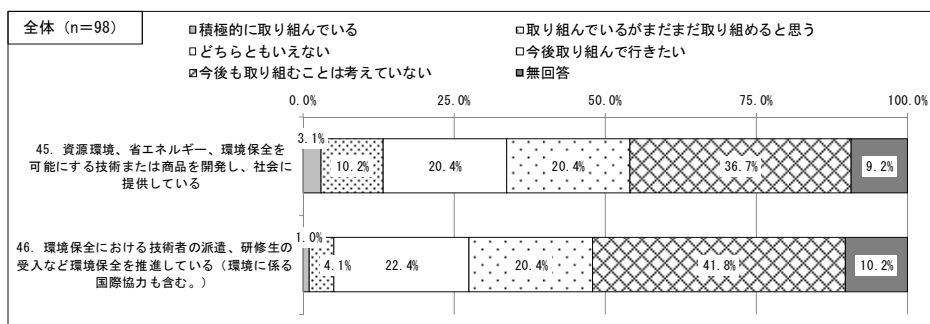
環境保全の提案をしている」(22.4%)、「顧客などに対して、環境に対する情報提供や啓発活動に取り組んでいる」(22.4%)などの、自事業所だけではなく外部へ働きかけを行う活動も、設定した項目の中では比較的高くなっています。

(8) 社外での環境保全活動の推進について



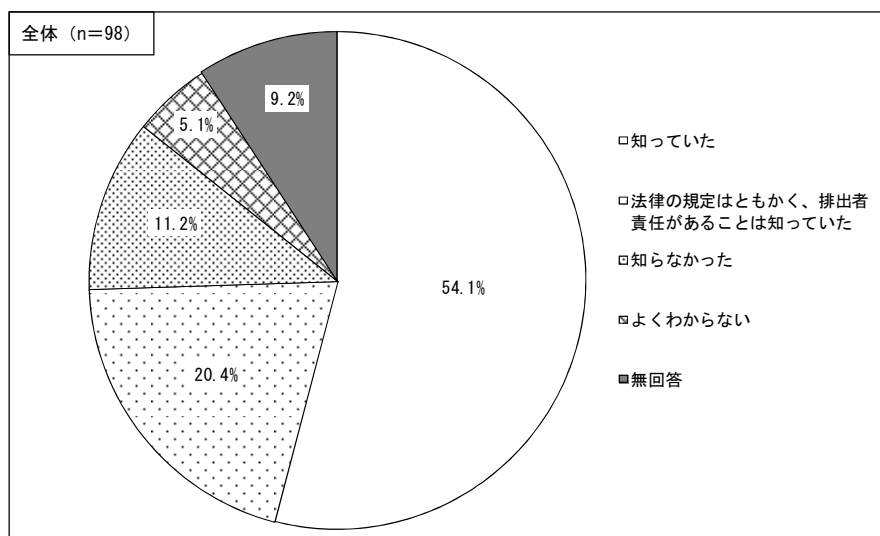
「積極的に取り組んでいる」と「取り組んでいるがまだまだ取り組めると思う」の合計は、「地域のボランティア活動に積極的に参加し、協力、支援を行っている」が21.4%と最も高くなっています。また、すべての項目で「今後取り組んで行きたい」との回答が30%前後となっていますが、「今後取り組むことは考えていない」との回答も同程度みられます。

(9) エコビジネス、技術開発について



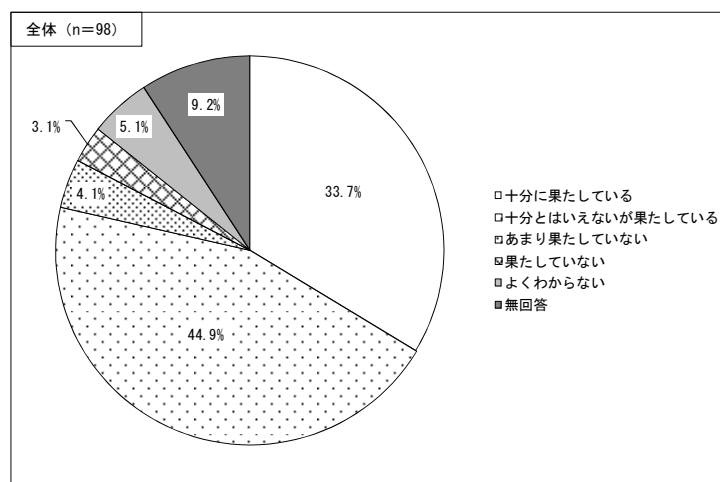
エコビジネス、技術開発については、ともに「今後取り組むことは考えていない」の回答が最も高くなっています。しかし、「どちらともいえない」を除くと、「今後取り組んで行きたい」との回答が2番目に高くなっていることから、行政側から支援やアドバイス等を行うことを検討していく必要があると考えられます。

問3-2



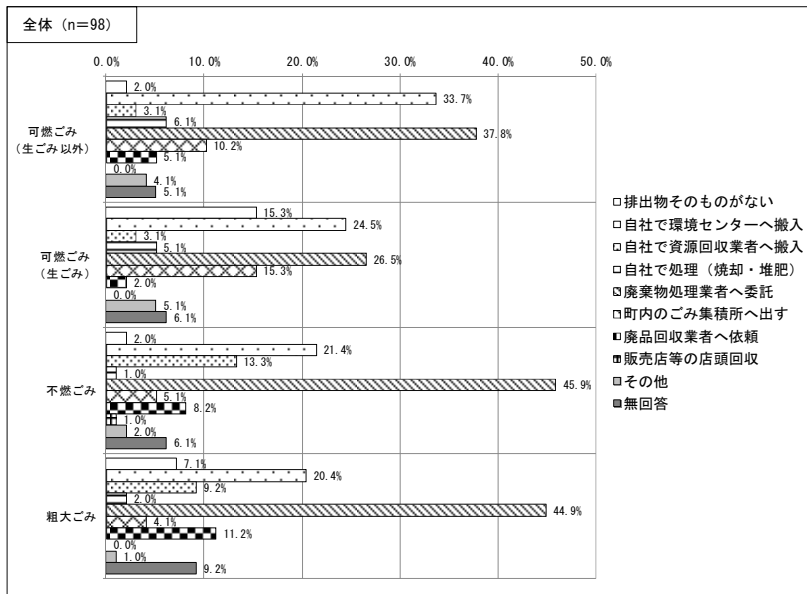
排出者責任については、「知っている」の回答が 54.1%と最も高くなっています。「知っている」と「法律の規定はともかく、排出者責任があることは知っていた」を合わせると、7割以上が排出者責任について認知していることになります。

問3-3

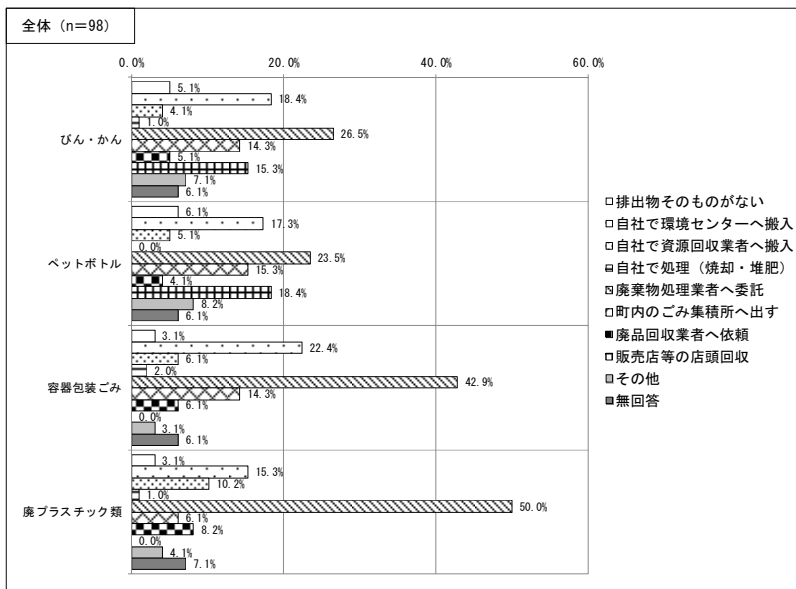


排出者責任を果たしているかどうかについては、「十分に果たしている」が 33.7%、「十分とはいえないが果たしている」が 44.9%となっており、合わせて 8割近くが排出者責任を果たしているとの回答となっています。

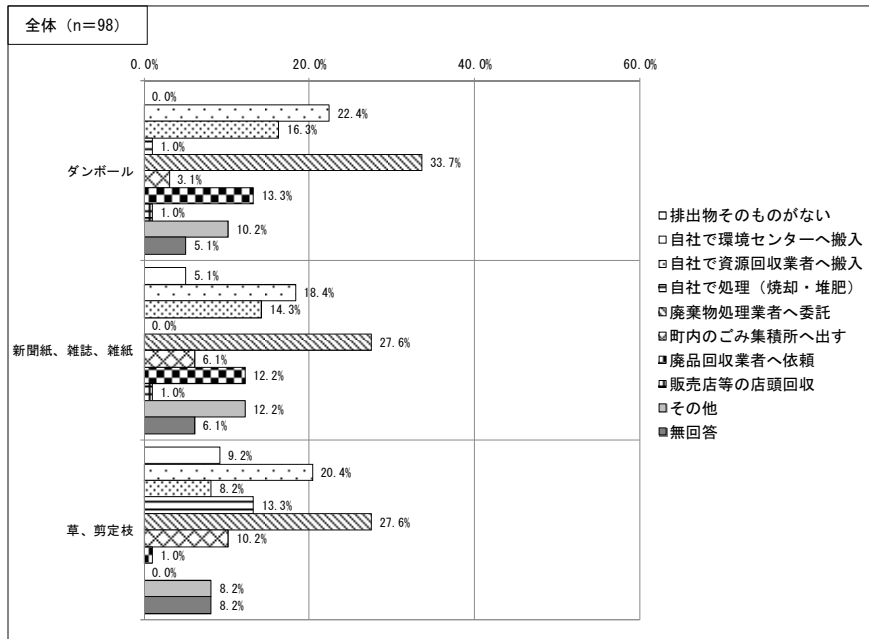
問3-4



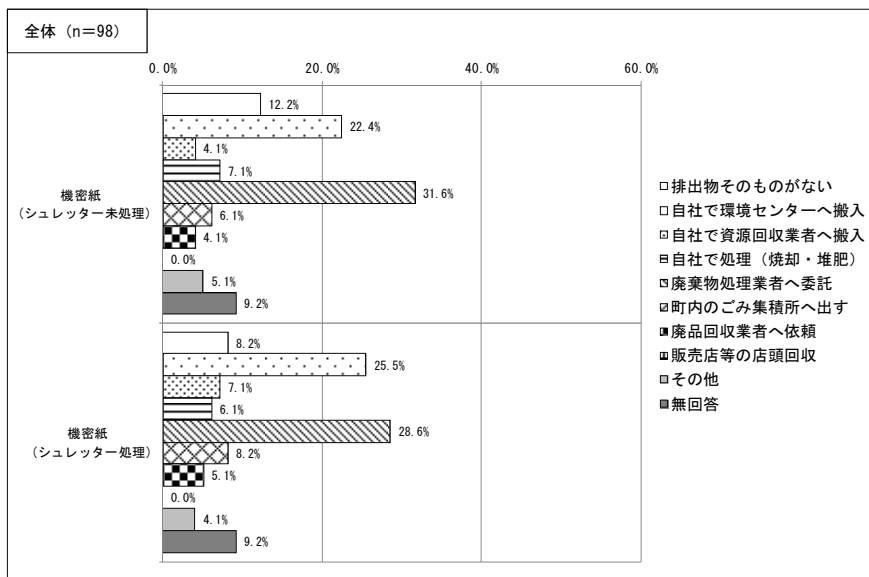
事業所から出る事業系廃棄物の処理方法について可燃・不燃・粗大ごみに注目すると、すべてのごみで「廃棄物処理業者へ委託」が最も高く、次いで「自社で環境センターへ搬入」が高くなっています。



びん・かん・ペットボトル等のごみについては、すべてのごみで「廃棄物処理業者へ委託」が最も高くなっており、ペットボトルを除いて、「自社で環境センターへ搬入」が2番目に高い処理方法となっています。

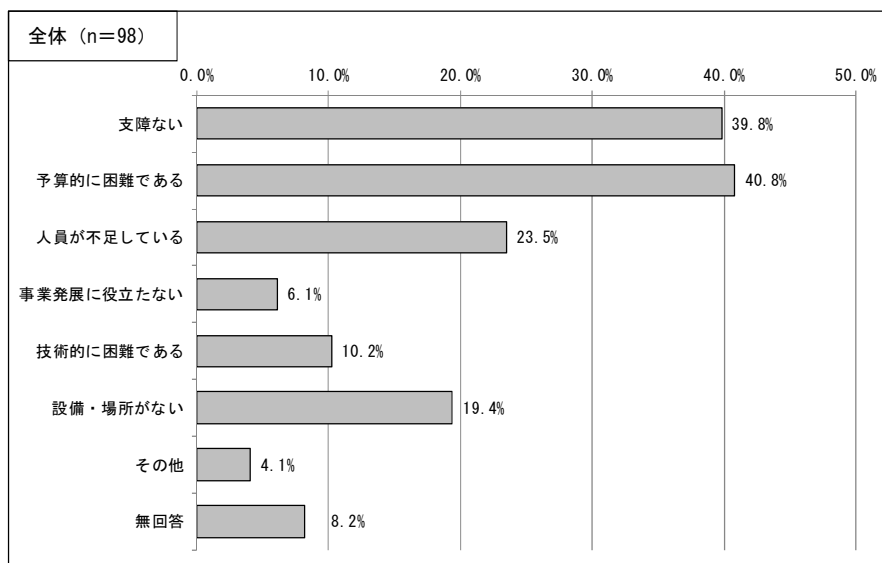


ダンボール・新聞・草等のごみについても、「廃棄物処理業者へ委託」が最も高く、次いで「自社で環境センターへ搬入」が高くなっています。



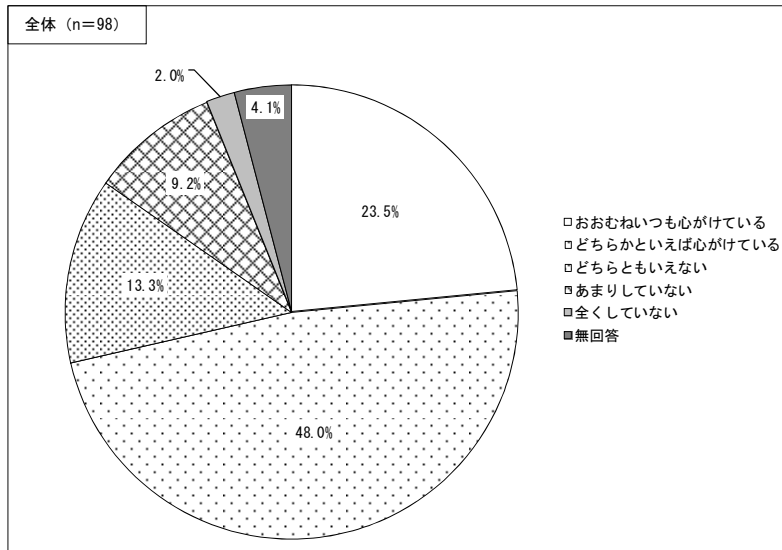
機密紙の処理方法についても、「廃棄物処理業者へ委託」、「自社で環境センターへ搬入」の順で高くなっています。

問3-5



環境に配慮した取り組みを実施していくうえでの支障については、「予算的に困難である」が 40.8%と最も高く、次いで、「支障ない」(39.8%)、「人員が不足している」(23.5%)、「設備・場所がない」(19.4%)の順となっています。経営面(「予算的に困難である」)やハード・ソフト面(「人員が不足している」、「設備・場所がない」)での問題が、取り組みに対する支障の主な要因であることがわかります。

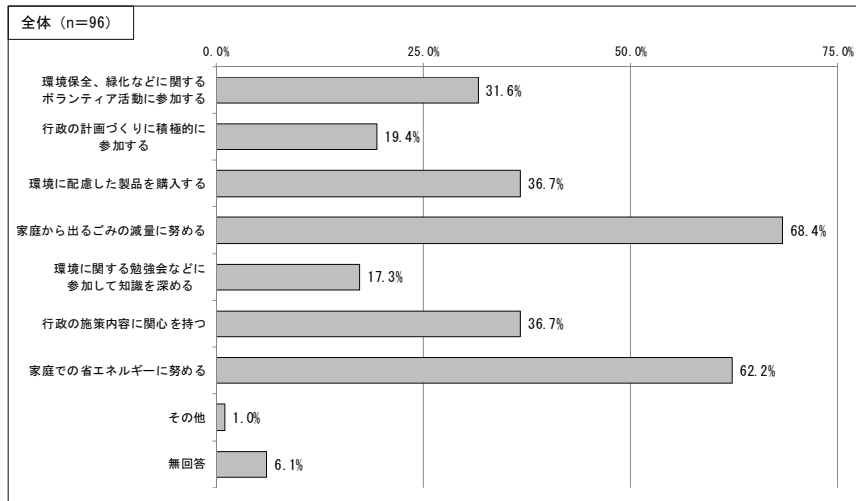
4. 地球温暖化防止に関する取り組みについて



事業活動における地球温暖化防止に配慮した行動の心がけについては、「どちらかといえ
ば心がけている」が48.0%と最も高く、次いで「おおむねいつも心がけている」(23.5%)、
「どちらともいえない」(13.3%)の順となっています。回答を得た事業所の中では、7割以
上の事業所が地球温暖化防止に配慮した行動を心がけていることがわかります（「どちらか
といえど心がけている」と「おおむねいつも心がけている」の合計）。

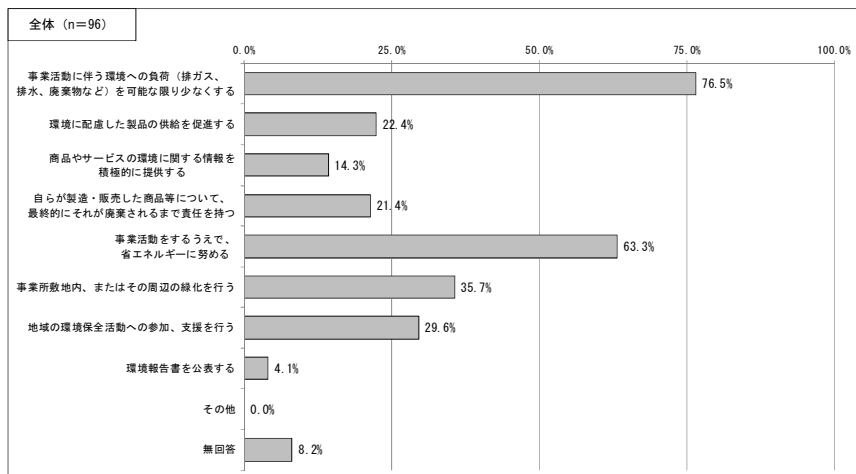
5. 貴事業所が環境保全のために町民・事業所・行政に望むことについて

【町民が、今後行った方がよいと思うこと】



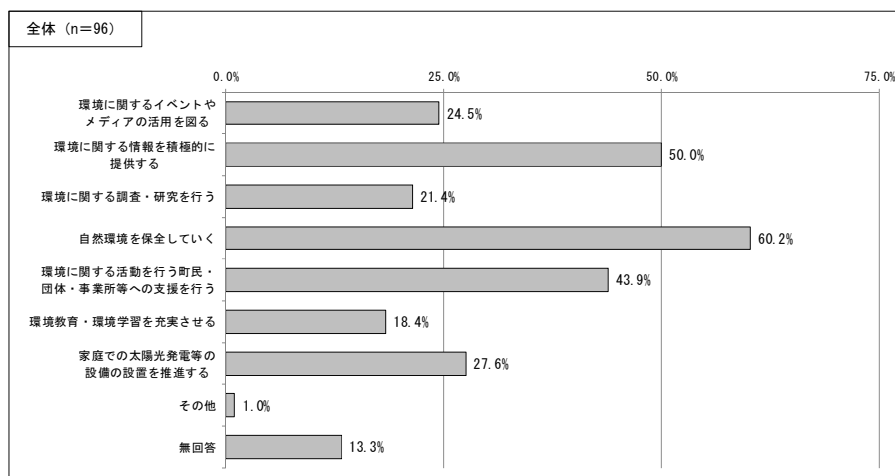
事業所の立場で、環境保全のために町民が今後行った方がよいと思うこととして、6割を占めているのが、「家庭から出るごみの減量に努める」(68.4%)と「家庭での省エネルギーに努める」(62.2%)でした。ともにコストをかける必要がなく、日常の生活の中で取り組むことができる内容といえます。

【事業所が、今後行った方がよいと思うこと】



事業所の立場で、環境保全のために事業所が今後行った方がよいと思うこととして、「事業活動に伴う環境への負荷(排ガス、排水、廃棄物など)を可能な限り少なくする」が76.5%と最も高く、次いで「事業活動をするうえで、省エネルギーに努める」(63.3%)が高くなっています。「町民が今後行った方がよいと思うこと」と同様に、環境に負荷のかかるものは出さないように心がけることや、エネルギー消費を抑えることが重要であると思われることがうかがえます。

【行政が、今後行った方がよいと思うこと】



事業所の立場で、環境保全のために行政が今後行った方がよいと思うこととして、「自然環境を保全していく」が 60.2%と最も高くなっており、行政による直接的な保全活動が望まれていることがうかがえます。また、「環境に関する情報を積極的に提供する」(50.0%)、「環境に関する活動を行う町民・団体・事業所等への支援を行う」(43.9%)が占める割合も高く、直接的な保全活動のほかにも、環境情報の提供や活動支援といった、保全活動が行いやすい環境の整備も望まれていることがうかがえます。

6. 川島町の環境保全に関する取り組みについて

未完成